

浄土院

[伝説]

浄土院は阿弥陀仏を祀り、浄土宗に属しています。小さな寺院ではありますが、自身の旗印のもと全国統一を果たしたものの、安定した政府を樹立する前に亡くなった武将豊臣秀吉（1537～1598 年）が登場する、歴史的な逸話におけるこの寺院の役割は有名です。

1587 年、秀吉は北野大茶湯を催すために北野天満宮に向かっていました。この茶会は文化人階級の集まりで、秀吉は上流階級から見た自身の地位を高め、それによって支配を正当化することを期待しました。それ以前の有力武士と同様に、秀吉は茶の湯を政治的同盟確立のための強力なツールと考えていました。

北野天満宮に向かう道中で、秀吉はのどの渇きを感じ、飲み物を所望したと言われています。彼は浄土院を見つけると、茶を求めて立ち寄ることを決めました。秀吉は訪れる場所で茶を振舞われることに慣れていましたが、予期せぬ秀吉の訪問にこの寺院の住職は驚きました。秀吉の希望をかなえようとして、住職は茶がきちんと染み出るのを待たずに、急いで客人に茶を振舞いました。

秀吉は、薄茶で満たされた椀を見て、最初は面を食らいましたが、それを飲み干すとさらに茶を求めました。すると、熱い湯だけが何度も注がれましたが、秀吉は客人の椀を繰り返し満たすことで、客人の望みを叶えようとする住職の真剣さを窺うことができました。秀吉はこのことを面白がり、後に「湯沢山茶くれん寺」として浄土院を回想しました。